

## 第2回総合計画審議会での主な意見

持続可能なまちづくり（市民が幸せになる（ウェルビーイング）まちづくり）を進めるため、

米沢市の魅力や特徴とは何か（米沢市の良いところ、悪いところ）。

### ▼魅力、良いところ

- ・東京から新幹線で2時間（県内で最も首都圏に近い好アクセス）
- ・人情味、奥ゆかしい、質素儉約による堅実な生き方、温かく面倒見が良い人柄、心地の良い方言
- ・子育てしやすい環境、都市部の風情と田舎のバランス
- ・四季がはっきりしている（自然が豊か、温泉、雪、レジャー（スキー、登山、トレッキング）、最上川源流）
- ・美味しい食べ物がたくさんある（米沢牛、鯉、果物、伝統野菜、郷土料理、地酒、米沢ラーメン）
- ・上杉の城下町、伊達政宗の生誕地
- ・伝統文化（米沢織、お鷹ぼっぼ、草木塔）
- ・まつり、四季の催し物が豊富
- ・図書館、博物館がある
- ・3つの大学を有する学園都市（教育推進地域）
- ・ものづくりが盛ん（製造業、産業団地）
- ・自然災害が少ない

### ▼悪いところ

- ・車社会で学生や高齢者に優しくない
- ・雪が大変
- ・行政が何をやっているか分かり難い（発信が弱い、PR不足）
- ・出る杭は打たれる（引っ込み思案、変化を嫌う人が多い、新しいことをしようとすると否定される）
- ・他人任せ、誰かがやってくれるだろうという意識が強く、自主性・主体性を持っている人が少ない
- ・地域で活躍しているプレイヤーの連携がとれていない
- ・活気がない（若者がいない、少子高齢化）
- ・大規模な屋内施設、大型商業施設が少ない
- ・チェーン店の増加（商店街の集客減）
- ・観光資源を活かし切れない
- ・景観が整備されていない（雑草、街並み、空き家、廃校）
- ・文化、スポーツ施設の老朽化
- ・防災意識が低い

将来の米沢市のあるべき姿、ランドデザインをどのように想定（想像）するか。

- ・子どもたちが米沢に生まれ育ったことを誇りに思い、自慢できるまち
- ・人と人がつながり、心と心がふれあう城下町
- ・SDGs とウェルビーイングの視点を重視して、特に20代～30代にとって魅力的で生活しやすいまち
- ・現状の市民サービスを維持し、コンパクトシティの中で幸福度を高められる生活を目指せるまち
- ・交通ネットワーク、公共交通機関が充実している（雪に強い）まち
- ・歴史や伝統を重んじながら、柔軟に変化し、積極的にチャレンジできるまち
- ・若者が安心して定住できるまち、高齢者が活かされるまち、子どもが安全安心に過ごせるまち
- ・あらゆる世代の市民が楽しく、安心して、それぞれの責務を果たして活動しているまち
- ・魅力ある働きの場があって、住み続ける若者が増えているまち
- ・各地域のコミュニティ機能が十分に発揮され、地域活性化がなされているまち
- ・地域で活躍しているプレイヤーや諸団体が各所でひとつずつの事業をバラバラに推進するのではなく、様々な事業を有機的につなげ、その上でより包括的かつ効果的な事業に展開し、各コミュニティをつなげ拡大していくまち
- ・世代を越えたコミュニケーションがあるまち
- ・全ての町内会に機能する防災組織があり、いざという時にみんなで助け合って減災に努めるまちづくり（防災ネットワークづくり）
- ・地産他消のまちづくり（米沢の良い産品を市外でも消費、米沢の魅力を拡散、米沢に来る人・帰る人の増加）
- ・楽しく過ごせる空間づくり、人が集まれる場づくり（生活空間、憩いの空間など）

10年後の米沢市の姿に向けて何をすべきか（何を改善し、何を新しく創りだすことが必要か）。

（結婚、出産、子育て）

- ・結婚、出産、子育てを魅力的に思える取組（育てる環境、働く環境、子を預けやすい環境）

（健康、福祉）

- ・安心して医療が受けられる体制
- ・介護、高齢者に優しい仕組みづくり

（教育）

- ・米沢を支え、米沢を愛する人材の育成（教育の米沢ブランド化、教育の米沢品質）
- ・いじめ、不登校のない学校教育
- ・学力の向上、広いグラウンドや公園を活かした学び・遊びの場
- ・小中高生が本市の特産品を実際に食べる、触れる体験
- ・全国水準の中高一貫校を創設

（若者定着、移住）

- ・全ての高校で地元企業を知る取組を行い、若者の地元定着率を促進
- ・学校と企業のつながりづくり（各企業・仕事内容の把握、定期的なインターンシップ）
- ・大学生が本市に残ってもらえる魅力の創出
- ・就職先が安定していて、県外に進学しても戻ってこられるシステムの整備
- ・20代、30代が魅力的で生活しやすいと思うまちづくりを推進し、生産年齢人口を増加（親世代を引き込む、定住させる施策）
- ・長く住むための仕事や生活への目的づくり、本市にゆかりのある人材の募集強化、受け入れ側の姿勢
- ・若者を発信源にしていく取組（SNS、GIGAスクール、学生の活用）

（産業）

- ・新たな産業団地を造成し、魅力ある企業を誘致
- ・ESG投資による企業投資
- ・オープンファクトリーへの投資（ものづくり現場、商品開発、学生の工場見学、起業サポート）
- ・観光名所でのイベント、ふるさと納税の充実
- ・観光において、さらにお金を落としてもらう工夫

（防災）

- ・道の駅米沢周辺に宿泊施設と大規模災害に備えた緊急物資輸送拠点を整備
- ・防災組織づくり（市全体、地区、町内会）

（交通・インフラ）

- ・交通ネットワーク、公共交通機関の充実（雪に強いまち、高齢者が安心して暮らせる移動手段）
- ・街なかの環境整備（学生街、駅前～ナセBA～上杉神社周辺）、河川整備、市役所周辺の環境美化、観光客に優しい道路標示
- ・「命をつなぐ道路」として都市計画道路石垣町塩井線の南部延伸事業を推進
- ・文化、スポーツ施設の整備や環境づくり
- ・可能な限りのコンパクトなまちづくりを進めるための生活機能と移動手段の確保

（コミュニティ）

- ・共助の精神を醸成する仕組みを推進し、世代を超えて地域のコミュニティ機能を強化
- ・買い物支援、通院支援

(行政)

- ・行政が率先して地域のプレイヤーをつなげる存在としての役割を担う
- ・行政各課の垣根を完全になくし、縦割りではなく横に広がるような改善
- ・スマート自治体の実現と常に改善する仕組み（部門）の構築
- ・本市の未来に投資（寄附）しやすい基金の創設
- ・官民で広域に取り組むデジタル化の推進（地域生活圏、二地域居住）

(その他)

- ・具体的な数値目標を示す
- ・資源を活かし、まちの個性や魅力を磨き、輝くためのまちづくりと人づくり
- ・様々な視点を有機的につなげ、ひとつのイベントに様々な要素を盛り込み事業を行っていくような取組
- ・たくさんある米沢の良いところを PR する（PR 不足）
- ・市内のプレイヤーや諸団体を熟知し、それらをつなげることができるようなプロフェッショナルな人材の創出
- ・どこの市町村もしていない何か